

(道徳)

「よりよい生き方」を考え、共に学び合う子どもを育てる
～道徳科の指導方法の工夫～

大阪市立市岡小学校 佐藤智美・豊田邦子

1 研究主題設定の理由

本校では、この数年間「伝え合う力の育成」を研究主題に国語科を中心に研究を進めてきた。子どもたちは、課題解決型の学習過程で学び、読み取ったことを表現する言語活動を行うことで、主体的に学び、自分の思いや考えを表現しようとするようになってきた。また、伝え合う力の基礎的・基本的な技能も育ってきた。その力をもとに、昨年度から「考え議論する道徳科の学習」を重点に取り組むこととし、研究主題を「『よりよい生き方』を考え、共に学び合う子どもを育てる」と設定し、多面的・多角的に考え、感じ方を交流し、考えを深めていくことを通して、子どもたちが主体的に学び、よりよく生きようとする自己の生き方を見つめることができる道徳科の指導法について研究を進めることとした。

2 研究の内容

(1) 学習指導過程（導入・展開・終末）の工夫

- 1時間の授業内で到達できる具体的なねらいの設定
- [導入] …主題に対する興味関心を高める工夫
[展開] …ねらいを達成するために、ねらいに深く関わる中心発問と、その前後の発問の工夫

(2) 指導方法の工夫

- 教材提示…指導者による読み聞かせを基本とし、子どもたちが教材を理解しやすくなるように工夫をした。(あらすじや場面状況等を説明する、場面絵・写真・デジタル教科書等の活用)
- 発問…子どもたちが価値について考えることで、新しい気づき・学びのある発問となる中心的発問を考えるようにした。(主人公の気持ちをを追うだけの発問とならないように)
- 話し合い…ペア・グループ・全体交流などを取り入れた話し合い活動
全体交流では、考えを「見える化」するために、ネームプレート、心情メーター、表情絵などを取り入れた。
- 書く活動…自ら考えを深め、整理するための重要な活動であるので、十分に時間を確保し、机間巡視で、多様な感じ方や考え方を引き出すようにした。
- 表現活動…児童に特定の役割を与えて即興的に演技する「役割演技」、動きや言葉を模倣して理解を深める「動作化」を効果的に取り入れた。

3 実践例

(1) 表現活動の工夫（動作化、役割演技）

- 1年生「かぼちゃのつる」2年生「くりの み」
登場人物の気持ちに共感したり、深く心情を理解したり、多様な考えを引き出したりすることができた。
役割演技をしている児童だけに気持ちを問うことが多くなっていたため、演技を見ていた児童たちに、表情や感じたことを具体的に問いながら、全体で話し合うなどの工夫があれば、さらに新たな気づきや、深い理解に結びついたであろう。

(2) ICT機器を使った指導方法

- 3年生「どんどんばしのできごと」
デジタル教科書を投影しながらの教材提示で、結末を知ることなく、主人公の気持ちに共感できた。心情メーターを利用して、主人公の悩む気持ちに共感できた。
- 4年生「絵はがきと切手」
児童が一人1台ずつタブレットを使用して、投票機能を使い、各自の意見を出し合い、友達の考えを知ることができた。ノートを書くことや、発表が苦手な児童も、タブレットを使って自分の意見を友達に伝えることができた。
タブレット上で、考えを知ることだけにとどまってしまっていたので、話し合いに結びつけていく必要があった。

4 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- 内容項目をもとに、教材文に即した明確なねらいを設定した。新しい学びを感じとれるもの、1時間の授業内で到達できるもの、1時間で変容可能なものを設定する事で、評価につなげやすくなった。また、ねらいにせまるための中心発問やそこへいたるまでの、または考えるための主発問や補助発問について検討を重ね、より深い授業展開の研究をすすめることができた。
- 学習の導入部に、教材のねらいに関わる質問をおこなったり、内容に関わる写真を提示したりすることで、学習の動機づけや児童が深く考えるきっかけを作ることができた。
- 児童の発達段階にあった話合いの形態（役割演技・ペア交流・グループ交流など）を工夫することで、児童一人一人が自分の思いや考えを分かりやすく伝えようとしたり、自分の思いを広げたり深めたりすることができた。
- 1時間の学習の流れが分かるだけでなく、教師が明確な意図を持って、対比的・構造的に示す板書を工夫することで、道徳的価値に近づく考えやふり返りがしやすくなった。
- ICT機器を活用した写真や教材文の提示の工夫により、児童の学習意欲を高めることができた。また、心情メーター等を提示することで、中心人物の気持ちの変化を可視化し、わかりやすくなった。
- 書く時間を十分に確保することで、自分の思いや考えをしっかり持ってから交流活動に臨むことができた。

(2) 今後の課題

- 一問一答の教師主導型の学習になりがちであった。より考えを深めるためには、教師の「支援の言葉かけ」「補助発問」「板書でのキーワードの提示の仕方」を吟味していく必要がある。
- 交流の場面で、自分の考えや意見だけを一方的に伝えることが多かった。他の児童の発言に「同じだ」「違う」「何が言いたいのだろう」と考える事ができるためには、日常的な学習の中で、話し合い活動を定着させることが大切である。
- 1時間の中で、「考え議論する道徳」を進めて行くにあたり、教材の提示方法、話し合い活動、書く活動を精選していく必要がある。